

教育再生会議

第10回第2分科会

2007.4.26

障害のある子どもに対する教育について 発達障害と特別支援教育

山岡 修

日本発達障害ネットワーク・代表
全国LD親の会・会長

1. 日本発達障害ネットワークとは

【正会員】(14団体)

2007.4.7現在

- * NPO法人 アスペ・エルデの会
- * NPO法人 エッジ
- * 社団法人日本自閉症協会
- * 日本トウレット協会
- * 日本LD学会
- * 日本臨床心理士会
- * 日本臨床発達心理士会
- * NPO法人 えじそんくらぶ
- * 全国LD親の会
- * 全国ことばを育む親の会
- * 日本感覚統合学会
- * 日本自閉症スペクトラム学会
- * 社団法人日本作業療法士協会
- * 日本言語聴覚士協会

【エリア会員】(42団体)

詳細は、JDD ネットのHP (<http://jddnet.jp/>)をご覧ください。



日本発達障害ネットワーク

日本発達障害ネットワークが目指すもの

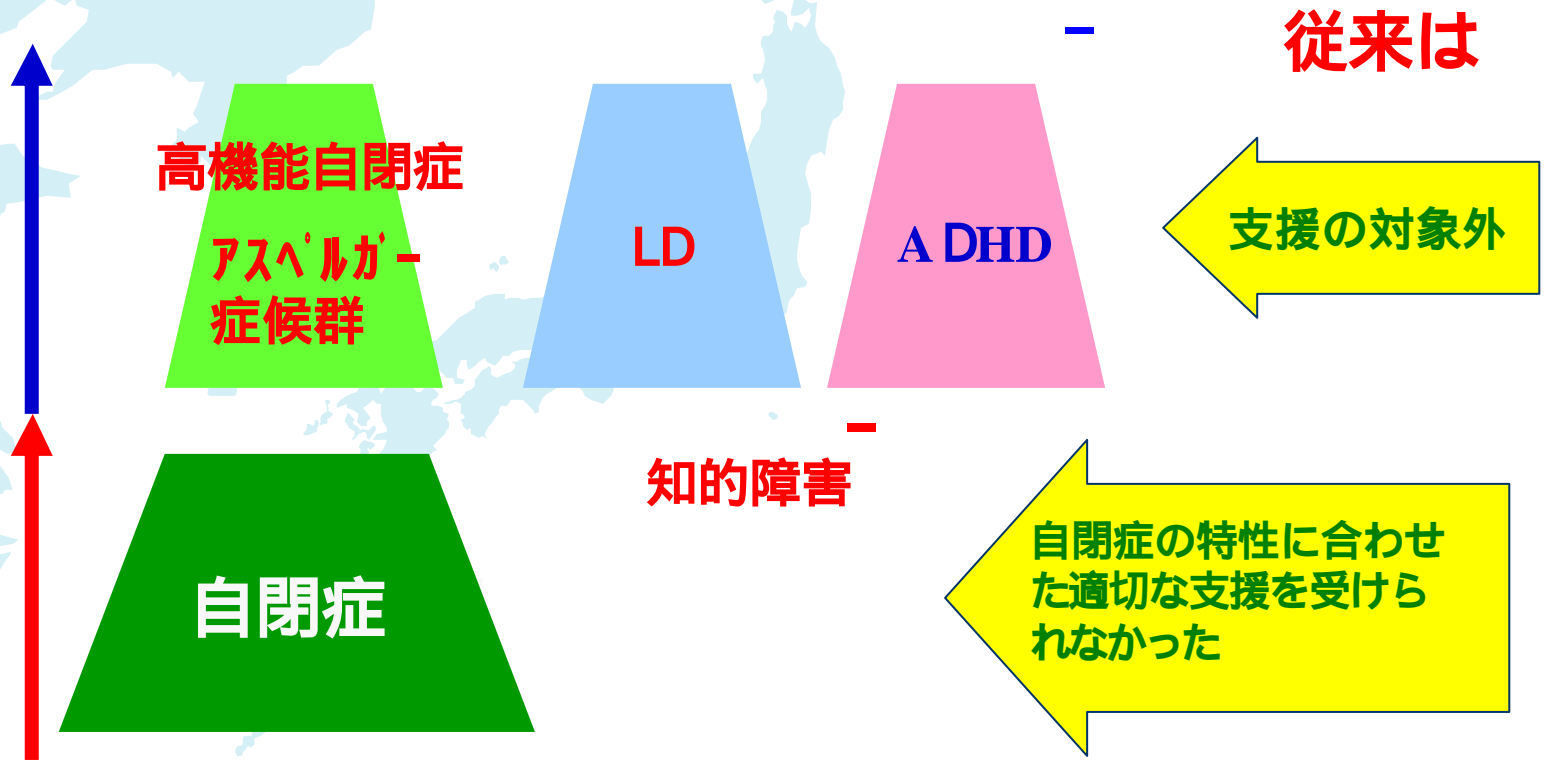
発達障害を代表する全国組織として、ユーザー側からの根拠や要望をきちんと提示し、行政と協働しながら、支援体制の整備に取り組んでいく。

保護者、学会、専門家などが、障害の種別や程度、学派や職種の壁を超えて、発達障害のある子ども達を中心に据えて、交流、意見交換、連携が図れるような、幅広いネットワークの構築を目指す。

発達障害のある当事者と家族が充実し夢を持ち、自立した社会生活を送れるようになることを、そしてそれに関わる全ての関係者の発展につながることを目指す。

2 . 発達障害者支援法とは？

発達障害者支援法上の発達障害



従来、対象外だった発達障害を支援の対象に加えた。

2 . 発達障害者支援法とは

2004年12月議員立法により成立

2005年4月施行

発達障害を早期に見出し、発達支援を行うことに関する国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、学校教育における発達障害者への支援、発達障害者の就労の支援、発達障害者支援センターの指定等について定めることにより、**発達障害者の自立及び社会参加に資するようその生活全般にわたる支援を図り** …

「発達障害者支援法」 第一条抜粋 (2005)

発達障害者支援は国の責務である。

3 . 特殊教育から特別支援教育へ

世界では

- 1994年のサラマンカ宣言以降、インクルージョン、特別なニーズ教育が世界の潮流になっている。
- ノーマライゼーションの進展、ICFの採択
- アメリカは1975年、韓国は1994年にLDを特殊教育の対象に加えている。

日本は

- 少年事件、不登校、学級崩壊等の諸問題が表面化
- 現在の特殊教育の対象は1.5%、軽度の子どもへの対応不十分
- 1992年の通級に関する報告でLDを取り上げて以来、15年経過

わが国の特殊教育は世界標準から大きく遅れてしまった。

3 . 特殊教育から特別支援教育へ

➤ アメリカでは約 11%の子どもが、特殊教育の対象
うち約半分は、LD等の発達障害

- 日本の特殊教育の対象者は、1.6%程度
- LD等の発達障害の子どもが、6.3%程度在籍
- 発達障害のある子ども達は、全ての学校、全ての学級にいる可能性があるが、放置されてきた。

➤ 特別支援教育の主戦場は通常の学級

3 . 特殊教育から特別支援教育へ

発達障害のある子どもの在籍状況 (全国LD親の会会員調査)

種別	人数	比率
普通級 (通級利用なし)	487	52.0%
普通級 (通級利用有)	181	19.3%
特殊学級	226	24.1%
養護学校	5	0.5%
フリースクール等	-	-
その他・不明	38	4.1%
計	937	100.0%

親の会の会員は、子どもの障害を認知しているが、大半の子ども達は、保護者にも教員にも気付かれず、苦しんでいる。

3. 特別支援教育への取組み

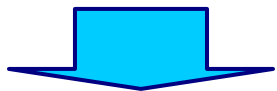
特殊教育から特別支援教育への転換とは？

- 障害の種別と程度に応じ 特別な場で指導する「**特殊教育**」から、一人ひとりのニーズに応じた支援を行う「**特別支援教育**」へ

- 1%の「**特殊教育**」から、10%の「**特別支援教育**」へ



- 一部の教員だけが関わる「**特殊教育**」から、全ての教員が関わる「**特別支援教育**」へ



- **特殊教育だけの改革ではなく、教育全体の改革**

4 . LDとは？

知的発達に遅れはないのに、聞く話す、読む、書く、計算する又は推論する等に著しい困難

- 知能が遅れていないのに、いつまでも文字が読めない
- 国語はよくできるのに算数はさっぱり
- 成績はよいけれど遊びやスポーツのルールが理解できず、みんなと一緒に遊べない。
- 知能などの発達に”普通の子”とは違ったアンバランスがある子ども達

4 . LDとは？

Learning Disabilitiesの略

Learning Disorderという言い方もある。



学び方の違う子ども達

能力に凸凹のある子ども達

5. 発達障害のある子ども達が求める教育とは

「ちょっと違ったところのある子どもがいてもいいよネ」

- ちょっと違った学び方をする子ども
- ちょっと違った行動を取る子ども
- ちょっと違った感覚を持つ子ども

原因は、中枢神経系の機能障害である。

- ◆ 「単に努力しない子」「単に我慢のない子」「単なる問題児」ではない
- ◆ 適切な支援があれば、改善・克服が可能である
- ◆ 教え方、接し方、支援には、工夫が必要である

みんな違って、みんないい

5. 発達障害のある子ども達が求める教育とは

➤ 何度練習しても、繰り下がりが算が出来ない。

繰り下がりが算のどこに躓いているのか？

間違っ問題に傾向がないか？

A君だけ、毎日10問やらせているが、身につかない。

➡ 躓きがあると、何度繰り返しても身につかない。

➡ 数の大小、引き算、短期記憶、10の補数

家でも、お母さんがつきっきりで教えているのに。

➡ 学校と家庭、学校と療育機関で違う教え方をしている

➡ 数えひき 減々法 減加法 補加法 5-2進法

5. 発達障害のある子ども達が求める教育とは

➤ **例** 何度練習しても、繰り下がり算が出来ない。

スモール・ステップでの指導

計算過程の段階毎に分解して指導

計算棒、図等の教具使い指導

暗算が難しければ筆算を行う

指を使って計算する。 お金に置き換えてみる。

計算が身に付かなければ、電卓を使う

書字が困難であれば、ワープロを使う

- LD等の子ども達に分かりやすいスモール・ステップによる指導、工夫した指導は、クラスの全ての子どもに分かりやすい指導である。
- 指導法の工夫は、教員の資質向上にも繋がるもの。

5.発達障害のある子ども達が求める教育とは

➤ 違った学び方をする子ども達

LD等の子ども達に工夫して指導することは、クラスのみんなに分かりやすい授業

➤ ちょっと違った行動を取ってしまう子ども達

LD等の子ども達に配慮して対応することは、クラスのみんなに受け入れられるクラス運営

6.教育再生に必要なこと

➤一人ひとりの子どものニーズに応じた指導

平均以下の学力の子どもに着目。落ちこぼれを作らない。

全体の学力向上に繋がる。

➤一人ひとりの子どもの特性に応じた対応

問題行動には必ず端緒、理由・背景がある。

解決の糸口がある。

発達障害のある子ども達が求める教育は、教育再生に繋がるものである。

要 望 事 項

通常の学級での特別支援教育体制の整備

- 特別支援教育推進のための教員配置確保 (最終5000～10,000人必要)
- 特別支援教育支援員 (日常生活の介助、学習サポート)の配置拡充

幼稚園、高校における特別支援教育体制の整備

- 早期発見・早期支援、巡回指導、特別支援教育支援員配置
- 高校における通級、特殊学級の設置、就労に向けた教育の拡充

教員の資質向上

- 全ての教職員免許の課程において、発達障害も含めた障害児教育の履修を義務付け
- 専門性のある教員を適切に評価

要望事項

再生会議の報告に「特別支援教育」の項立てを

「いじめ問題」について発達障害に関する表現について誤解を招かない配慮を

- 発達障害のある子どもは被害者になることが圧倒的
- 背景に発達障害があることを気付かれていないケースが多い。

まとめ

- LD等の子ども達に分かりやすい授業は、全ての子ども達に分かりやすい授業である。
- ADHDや高機能自閉症等の子ども達に配慮した支援は、全ての子ども達に通用する対応である。

- 特別支援教育は、特殊教育だけの変革ではなく、通常教育も含めた教育全体の改革である。
- 特別支援教育への取組みは、学力低下・不登校・校内暴力等の現在の教育が抱える諸問題の解決に繋がるものである。

「教育再生」に特別支援教育の理念は不可欠